

エネルギー持続性フォーラム 第4回公開シンポジウム

国際シンポジウム

ポスト京都議定書に向けた 低炭素社会の構築

主催：東京大学サステナビリティ学連携研究機構（IR3S）

共催：国際連合大学 サステナビリティと平和研究所
昭和シェル石油 株式会社

日時 / 会場

2009年

10月28日(水)

13:00 ~ 17:30

国際連合大学 ウ・タント国際会議場
(東京都渋谷区神宮前 5-53-70)



お申し込みはこちらから。参加費は無料です。

<http://www2.ir3s.u-tokyo.ac.jp/esf/symposium.html>

お問い合わせ

第4回公開シンポジウム 連絡担当
株式会社サイマル・インターナショナル内
Tel: 03-3524-3133 Fax: 03-3524-3135
E-mail: ir3s@simul.co.jp

国際シンポジウム

ポスト京都議定書に向けた低炭素社会の構築

今年の12月に国連の場で、2012年以降の国際枠組み（いわゆる「ポスト京都議定書」）の合意に向けて「COP15（国連気候変動枠組み条約第15回締約国会議）」がコペンハーゲンで開催されます。次期枠組みでは「衡平」かつ「実効性のある」内容であることが求められています。同時に、途上国を含む主要排出国が協調して参加することが前提となります。世界的景気後退からの脱却が最重要課題である経済状況下で、「温室効果ガスを半減させる」という高い目標に向かって国際的合意をどのように取るかが問われています。

本国際シンポジウム「ポスト京都議定書に向けた低炭素社会の構築」では、目指すべき「低炭素社会構築」に向けて各国がどのような対応が必要と考えているかを議論・提言することを目的とします。この目的に沿って日本、米国、欧州から専門家を招き、COP15に向けた各地域の温室効果ガスの削減目標と目標達成のための政策に対する考え方、さらには国際枠組みへの途上国の参加を進めるための方策に関する講演と、講演の内容に基づいたパネルディスカッションを行います。

プログラム

※ 同時通訳あり

■ 開会挨拶 13:00～13:05 武内 和彦

- 講演 13:05～13:35 高村 ゆかり 「COP15（コペンハーゲン）に向けた温暖化交渉の課題と展望」
 13:35～14:05 W. C. RAMSAY 「Europe's Search for a Low Carbon Future」
 14:05～14:35 G. BERENDS
 14:35～15:05 湯原 哲夫 「気候変動の科学、国際公平性、実現可能性からみた日本の中期CO2削減目標」
 15:05～15:35 S. R. CONNORS 「Looking Beyond the Targets: Capacity Requirements to Achieving Large Scale Greenhouse Gas Reductions in the United States and Beyond」

≪ 休憩 15:35～15:50 ≫

■ パネルディスカッション

- 15:50～17:25 モデレーター： 山地 憲治
 パネリスト： 講演者ならびに A. S. HERATH

■ 閉会挨拶 17:25～17:30 新井 純



武内 和彦

国際連合大学 副学長
 東京大学サステナビリティ学
 連携研究機構 (IR3S) 副機構長



高村 ゆかり

龍谷大学法学部 教授



William C. RAMSAY

フランス国際関係研究所
 シニアフェロー



Gijs BERENDS

駐日欧州委員会代表部
 一等書記官



湯原 哲夫

東京大学サステナビリティ学
 連携研究機構 (IR3S) 特任教授
 キヤノングローバル戦略研究所
 研究主幹



Stephen R. CONNORS

MIT エネルギー・環境研究所
 地域代替エネルギー解析グループ
 ディレクター



山地 憲治

東京大学大学院工学系研究科
 電気系工学専攻 教授



Anura S. HERATH

国際連合大学
 サステナビリティと平和研究所
 学術審議官



新井 純

昭和シェル石油株式会社
 代表取締役社長